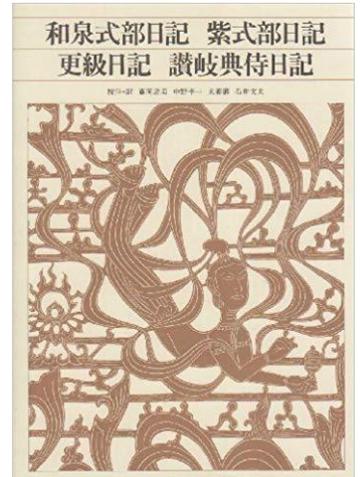




5月と言えば「GW（ゴールデン・ウィーク）」です。新緑の季節、たくさん本を読みましょう！
そーだ、毎年恒例になっている「泉新」（桐生市）で鰻を食べて、劇場版「名探偵コナン 緋色の弾丸」
を観に行かねば、「県総体（群馬県高等学校総合体育大会）」もあるぞ！ と思っていたら「新型コロナ」の影響で・・・

「SNS」の利用は慎重に！ トラブルが起こってからでは遅い！！

皆さんが持っているスマートフォンでホント便利ですよね。いつでもどこでも世界中の情報を手に入れることができます。でも情報の中には「インフォミック(不確かな情報)」があるので注意しなければなりません。また「SNS」の利用方法を誤ると、とんでもないトラブルに巻き込まれたりしてしまいます。人と対峙しての操作ではないだけに「書き込み」や「投稿」の内容も過激になったりしてしまいます。そんなことでトラブルが起こるなんて絶対に避けたいですよね。時々「女子の間でSNSをめぐるトラブルが発生した。」なんて噂を聞きますが・・・皆さんは、大丈夫ですか？
女の子の「悪口」や「書き込み」は昔からあったみたいですよ。平安時代の人で「源氏物語」の作者として知られる「紫式部」は、「枕草子」の作者「清少納言」が大嫌いでした。自身の「紫式部日記」の中で「清少納言こそ、したり顔にいみじうはべりける人。さばかりさかしだち、真名書きちらしてはべるほども、よく見れば、まだいとたらぬこと多かり。（清少納言は実に得意顔をして偉そうにしていた人です。あれほど利口ぶって漢字を書きちらしております程度も、よく見ればまだひどくたりない点がたくさんあります。）」（小学館「新編日本文学古典全集」）と書いています。女性の悪口は怖いです！



「リアルサイズ 古生物図鑑」 恐竜がペットに?!

中生代編では、三畳紀、ジュラ紀、白亜紀の3地質年代を生きた生物から100種以上をピックアップしてそのサイズの秘密に迫ります。もちろん、海棲は虫類、翼竜、ほ乳類、鳥類、両生類、植物、そして軟体動物といったマニアックな古生物も登場します。サイズ感を肌で感じてもらえるよう、前作同様に、中生代のさまざまな古生物を、現代の(身近な)風景に配置しています。



“一般的な図鑑”に登場するあの古生物が「うおー、これはデカすぎるでしょ!」「あれ、こいつってこんなに小さいの!？」といった具合に、そのサイズを直感的につかんでもらえます。
恐竜って「大きい」という印象がありませんか？ 実際、大きいものが多いのですが、実はかなり小さいものも結構いたようです。「今生きていたら、ペットとして人気でるだろうなあ」なんて感じることもできるのも、この本ならではの楽しみです。肩の力を抜いて、軽い気持ちで読んでみたい“図鑑”です。

A	B	18
C	D	E
F	26	7

図書館からの挑戦状だ!

左の図表のタテ・ヨコ・斜めの3マスをたして、その和が全て同じになるようにA~Fにそれぞれ適当な数字を入れなさい。
ヒントは (タテの3マス) = (ヨコの3マス) = (斜めの3マス)
どこをたしても答えは同じだ! さあ、この問題が解けるかな?!
解答は図書館の掲示板に貼っておくので確認して下さい。

「図書館」で待ってるぞ、たくさん本を借りに来てね！！

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で3月4日から「休校」が続いていました。4月になっても感染は収束せず、GW明けまで「休校」が延長されてしまいました。楽しみにしていた劇場版「名探偵コナン」も「泉新」の鰻も……。それどころか「図書館」から生徒たちの笑顔が消えてしまいました。気持ちを切り替えて、いつ「休校」が解除されてもいいように準備することにしました。毎日の清掃を欠かしませんでした。新着図書もしっかりと準備しておきました。また楽しい本をたくさん入れたので、いっぱい借りに来て下さい。新入生の「図書館利用者カード」もオリエンテーションの資料も用意しておきました。受け入れ態勢は万全です。でも2ヶ月もの間、みんなが「図書館」に来なかったのが寂しかったです……。



「大切なものは、目に見えない！」学校生活の中で、新しいものを発見しましょう！

今回は生徒会長の「福田優」さんです。新型コロナウイルス影響で休校が続き、イベントが中止になるなど生徒会活動も制限されていますが、今後はどんな活動を計画しているのでしょうか？



Q：生徒会では、今後はどんな活動を計画していますか？

A：「朝の挨拶運動」を継続します。また**全校生徒へのアンケートを実施**します。今回のテーマは「自動販売機に入れて欲しいドリンク」です。ランキングを作って、皆さんの要望に応えたいと思います。

Q：福田さんにとって「図書館」でどんな場所ですか？

A： **新しいことを発見できる**場所です。知らないことが多くて、図書館に来ると見るものすべてが新鮮に感じられます。だから新しい興味・関心が次から次へと湧いてくるんです。どれだけいても飽きないですよ。

Q：みなさんへの「オススメの1冊」を紹介して下さい。

A：アントワーン・ド・サン＝テグジュペリの「**星の王子さま**」です。

「大切なものは、目に見えない (Le plus important est invisible)」という言葉は、本当に大切なものは生命であり愛だということを教えてくれました。児童書の形式ですが、大人へと近づいている私たちに「子どもの心をいつまでも忘れないで。」と語りかけているようにも思えます。何度も読み返してしまいますね。

「華氏 451 度」本がなくなったら、どうする???

本の所持や読書が禁じられた、架空の社会における人間模様を描いた作品。題名は（本の素材である）紙が燃え始める温度（**華氏 451 度**⇔**摂氏 233 度**）を意味している。ブラッドベリ自身は『この作品で描いたのは国家の検閲ではなく、テレビによる文化の破壊』と2007年のインタビューで述べている。

舞台は、情報が全てテレビやラジオによる画像や音声などの感覚的なものばかりの社会。そこでは本の所持が禁止されており、発見された場合はただちに「ファイアマン」と呼ばれる機関が自動して焼却し、所有者は逮捕されることになっていた。（表向きの）理由は、本によって有害な情報が善良な市民にもたらされ、社会の秩序と安寧が損なわれることを防ぐためだとされていた。

密告が奨励され、市民が相互監視する社会が形成され、表面上は穏やかな社会が築かれていた。だがその結果、人々は思考力と記憶力を失い、わずか数年前のできごとさえ曖昧な形でしか覚えることができない愚民になっていた。そのファイアマンの一人であるガイ・モンターグは、当初は模範的な隊員だったが、ある日クラリスという女性と知り合い、彼女との交友を通じて、それまでの自分の所業に疑問を感じ始めた。ガイは仕事の現場で拾った数々の本を読み始め、社会への疑問が高まっていく。そして、ガイは追われる身となっていく。（「Wikipedia」参照）

桐一の図書館にこの本がなかったのは、2014年東京都内の図書館や書店で「**アンネの日記**」が破裂される事件を聞いた時と同じくらいショックだった。「**華氏 451 度**」を、みんなには是非読んでほしい！！

